

## 9回生 戸山真吾さん



苦しんでいる人の心に寄り添える医師

— 常に研鑽を忘れず

1992年4月 弘学館中学校入学  
1998年3月 弘学館高等学校卒業  
1998年4月 佐賀大学医学部入学  
2007年4月 佐賀大学医学部附属病院勤務  
2011年10月 放射線医学総合研究所  
重粒子医科学センターに出向  
2013年4月 サガハイマツト勤務

(2017年10月現在)

### 患者さんに優しい治療を。

一日あたり、外来に100名、治療のために40～50名程の患者さん来院されます。当然ですが、ここに来られる患者さんたちはがんと診断され、不安を抱え、何か治療の方法はないかと悩んでおられる方ばかりです。そのような方々に、「サガハイマツト」だからできる、より良い治療法を提案することはもちろんですが、私自身が心がけているのは、「患者さんの心に寄り添う」ということです。副作用が少ないことや、通院治療が可能なこと、治療期間が短く済むことなどは、重粒子線治療の特長ですが、このような良い点があるからと言って、患者さんの不安が完全に取られるわけではありません。少しでも安心して治療に臨んでもらえるように相手の「心」を見つめること、そして、日々勉強という意識を忘れないようにしています。

### 「繋がる」

#### 医療のネットワーク。

新鳥栖駅前ある「サガハイマツト」は、九州はもちろん全国からアクセスしやすい施設です。日本の最先端の治療を求めて、中国など外国から来院される方もいらっしゃいます。

治療は、他の医療機関で、必要な検査を行ったうえで、重粒子線治療を希望する患者さんを紹介してもらうことから始まります。また、治療終了後も、紹介元の医療機関と連携し、経過観察を行います。

様々な人や医療機関が関わって初めて、患者さん一人一人に合わせた治療を行うことができます。それぞれが「がんに苦しんでいる方々のために」という同じ視点を持って仕事をしています。今後も治療の重要な拠点として、多くの方々を救うことのできる場であることを目指していきます。



実際に重粒子線を照射する治療室

### 戸山真吾さんのとある一日

8:30 出勤

午前 診察

12:00 昼休み

午後 診察・治療計画の作成

17:00 適宜会議

18:00 論文作成等

### 後輩へのメッセージ

弘学館生活では「寮」の良さを感じる機会がたくさんありました。六年間しっかりと勉強ができたのは寮に入っていたからだと思います。友達と一緒に頑張ったことは今でも思い出です。全体で頑張ろうという空気を作っていたと思います。先生のアドバイスを素直に聞き、コツコツ取り組むことや時間を守る習慣は早めに身につけておくべきでしょう。また、今「英語」の大切さを痛感しています。ぜひ熱心に取り組んでください。

